



全難聴便り

発行:事務局 〒162-0066
東京都新宿区市谷台町 14-5 MSビル市ヶ谷台1F
編集:全難聴事務局
電話:03(3225)5600
FAX:03(3354)0046
URL:<http://www.zennancho.or.jp>
E-Mail:zennacho@zennancho.or.jp

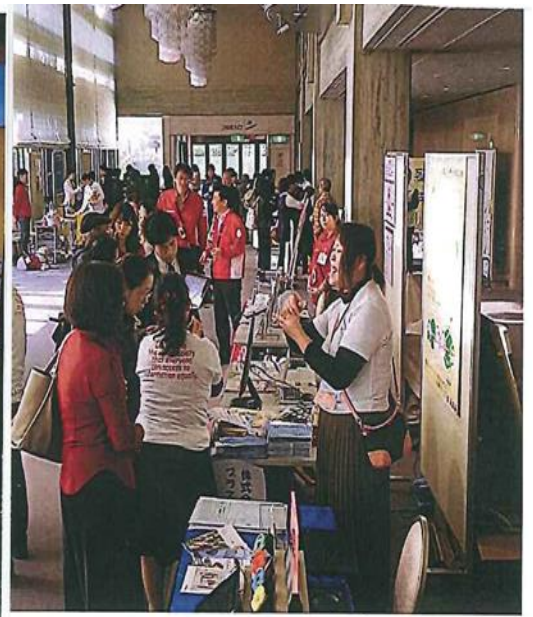
全難聴福祉大会 IN 奈良 まほろば大会が盛大に、成功裏に終了!

「つなげよう ともに生きる未来を」をテーマに全国から500名に及ぶ参加者集めて～国のまほろば大和の地から～を合言葉に11月26日分科会・懇親会、27日式典・全体会・アトラクション・記念講演・閉会式、28日観光(半日コース・一日コース)が催行されました。

- 第1分科会 全難聴は見た! 世界の難聴者福祉情勢(座長:瀬谷和彦国際部長)
- 第2分科会 再び奈良で、歴史と文化に触れてみよう(座長:新谷友良理事長)
- 第3分科会 きこえの健康支援センターに望むもの(座長:中川良雄補聴医療対策部長)
- 第4分科会 『今』、要約筆記事業を最大限に生かす(座長:宇田川芳江要約筆記部長)



第3分科会、NHK 奈良放送局のニュースにて



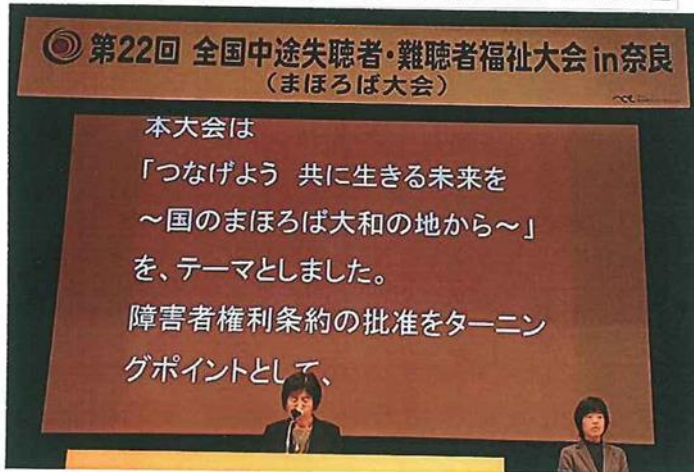
賑わう展示コーナー

懇親会は奈良大学学生さんによる雅楽と舞いでオープニング、川場副理事長の乾杯の発声、実行委員長、理事長のあいさつ、食事歓談と続き「せんとかん」登場で一気に会場は盛り上がりました。時間の過ぎるのも忘れて時間をオーバーするほどでした。

その後は、2次会へ繰り出すグループ、宿泊先ホテルへ直行するグループ、それぞれ思い思いの古都での夜を堪能されました。



厚生労働大臣あいさつ代読の時末専門官



歓迎あいさつを述べる出口明子実行委員長

大会2日目 27日

式典 21名の来賓の方々と20名の役員がお迎えする形で式典が進行しました。

先ずは、出口明子大会実行委員長(下の写真)が歓迎あいさつを述べました。

続いて、主催代表として新谷理事長があいさつをしました。

時末専門官からは塩崎厚生労働大臣祝辞代読いただき、奈良県副知事浪越照雄様より中途失聴者の同僚のエピソードも添えられてお祝いの言葉をいただきました。続く奈良市長仲川げん様からも今年から施行された奈良県条例を引き合いに共に頑張りましょうとのエールをいただきました。

来賓祝辞の最後は全要研理事長三宅初穂様で、連帯の祝辞をいただきました。その後来賓の紹介がありました。8項目にわたる大会決議は川場副理事長より発表され、採択されました。日身連様からの祝電披露のあと第21回大会開催地協会である香川県協会湯浅会長への感謝状・記念品贈呈が、引き続き大会表彰として下記の方々が表彰を受けられました。誠にありがとうございました。受賞された方は以下の方々です。

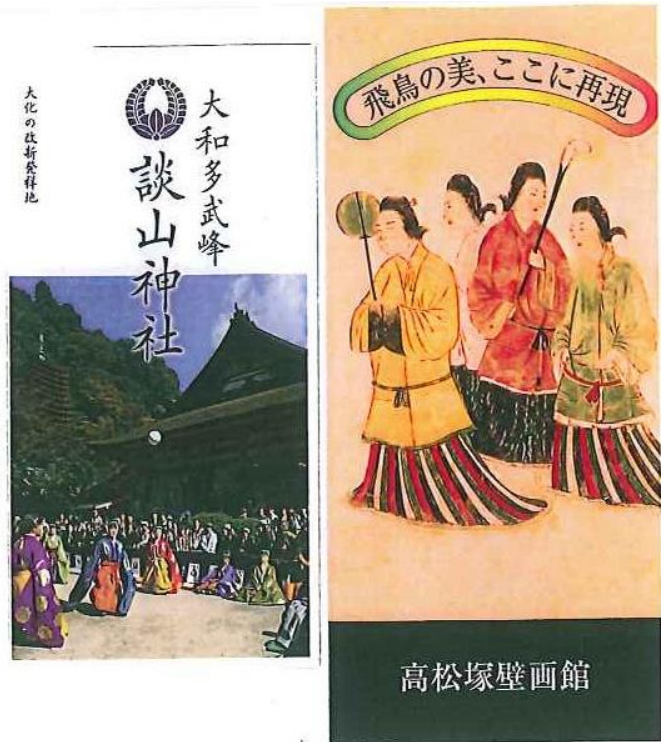
長田由美子様 滋賀県協会前会長、有延八千代様 山口県協会前会長、田代慶藏様 三重県協会現会長、須山優江様 横浜市協会副会長・前全難聴女性部長。以上4名の方々に表彰状と記念品が新谷理事長より授与されました。誠にありがとうございます。

引き続き、聴覚障害者情報提供施設協議会小中理事長をお招きしての新谷理事長との「中失・難聴者にとっての聴覚障害者情報提供施設」というテーマで、新谷理事長とのパネルディスカッションを行いました。司会・進行は佐野事務局長担当しました。

昼食・休憩のあとはアトラクション・パントマイムを楽しみ、お待ちかねの里中満智子氏の講演、「夢をみる力」と題して、ご自身が歩んでこられた人生を振り返りながら、漫画家として名を成すまでのことを話していただきました。今後の作品への抱負も伺いました。

記念講演のあと、地元奈良県実行委員会より大会宣言が発表されました。引継では次回開催地の東京都協会実行委員長扮する「マツコ」さんの登場で、青年部長との掛け合いによる漫才に拍手喝采でした。

2日間にわたる第22回全国中途失聴者・難聴者福祉大会も無事に成功裏に終了することができました。奈良県実行委員の皆さまのご尽力に感謝いたします。



観光にて

大会三日目の観光は2コースに分かれて観光がありました。帰宅し万歩計を見たら1日で1万歩でした。坂や階段の多いコースのため、足元が悪い方にとっては大変だったようです。バスの中ではヒアリンググループとUDトーク音声認識を使用した車内テレビへの表示でした。そして手書きノートテークのために4名の要約筆記の方が乗車されました。ご不満をもらす方々も少なからずいらっしゃいましたが、出口実行委員長の話は、ほとんど正しい変換で表示されていました。3日間ご参加の皆さま、無事にご帰宅されたことと思います。

👉 全難聴・全要研 統一見解を公表しました。

全難聴では、このたび全要研と「要約筆記利用時のルールや用紙、ログの扱いについて」協議をし、統一見解という形で全国の都道府県・政令指定都市・中核都市の障害福祉担当関係課宛に送付しました。各市区町村へは都道府県担当課より通知されます。

会員の方々、要約筆記利用者の方々には突然のこととして受け止められる方もおられるかと思えます。要約筆記奉仕員事業で派遣事業が行われていた頃から、ルールや用紙、ログの扱いについては不徹底さの問題を抱えたままとなっていました。現在は厚生労働省通知の養成カリキュラム及び養成カリキュラム準拠テキストに基づいた養成・派遣事業が実施されています。

要約筆記者養成テキスト<下>の41ページ【3】振り返りのところで、「ログとログの取扱」に関する説明が、61ページでは「普遍的な対応」のところで「その場の情報を流出させない」ことについての説明がなされています。テキストをお持ちの方はそちらを参照

ください。なお、ログについては「パソコン要約筆記が入力して表示したデータ」のことです。語源は船の航海記録(日誌)。語源の綴りは「Logbook」ですので「log」と表現しています。

福祉サービス事業として、障害者総合支援法の意味疎通支援事業の1つとして要約筆者派遣事業が実施されています。これには、国が定めている事業であり、都道府県あるいは区市町村が実施主体となって、手話通訳者派遣事業と同等の事業として実施されています。貴重な税金を原資として投入している事業ですので、実施に当たっては国民、県民、市民の理解が得られることが大切です。全国各地の実施事業体や担い手である要約筆記者の倫理や、利用者である中途失聴・難聴者の節度ある利用が求められる所以と考えます。

上記の観点から、全国的に事業が実施されていますが、一部の地域でログを求めるところも出ており、意見・要望という形で全要研・全難聴に対して、ご質問・ご意見も寄せられています。このような中、両団体では改めて統一見解をまとめ、皆さまにお知らせすると同時に、全国の実施事業体に対しても通知をすることにいたしました。

📌 理事の動き (11/1~11/30)

- 11月 9日 厚労省面談(新谷、佐野)
- 11月 10日 明治大学「問題発見テーマ演習 B:情報のアクセシビリティ」(小川)
- 11月 14日 119番通報の多様化に関する検討会第2回(小川)
- 11月 15日 要約筆記者指導者養成研修運営委員会(新谷)
- 11月 16日 JDF 代表者会議(新谷)
- 11月 16日 JIS 及び ISO 図記号の理解度比較試験及び視認性調査面談(小川)
- 11月 21日 JDF 幹事会(新谷)
- 11月 26~28日 第22回全国中途失聴者・難聴者福祉大会 in 奈良(まほろば大会)
(新谷、川場、佐野、宮本、宿谷、瀬谷、湯浅、宇田川、内、小川、
神矢、黒田、永井、中川、永末、信木、橋本、吉野、齋藤、田代)
- 11月 30日 JDF 権利条約推進委員会(国際部:瀬谷理事の代理出席)

📌 事務局報告

- 11月 16日 日本光電来所
- 11月 26日~28日 第22回全国中途失聴者・難聴者福祉大会 in 奈良(まほろば大会)

《予定》

- 12月 1日 利用に向けた多様な利用者の円滑な移動支援に関する共同研究
- 12月 2日 全難聴便り No.102 発行
- 12月 2日 聴覚障害者制度改革推進中央本部事務局会議・拡大会議
- 12月 5日 東京国際空港国際線ターミナルビル検証
- 12月 6日 厚生労働大臣表彰式典
- 12月 6日 JDF 全国フォーラム
- 12月 7日 事務局会議
- 12月 9日 全国生協連助成金贈呈式
- 12月 13日 4団体連絡会
- 12月 16日 JIS X 8341-4 改訂原案作成委員会及び分科会
- 12月 23日 全要研との定期協議会
- 12月 23日 要約筆記WG
- 12月 26日 119番通報の多様化に関する検討会(第3回)
- 12月 26日 全労済助成金贈呈式
- 12月 28日 機関誌「難聴者の明日」発送
- 12月 28日 全難聴便り No.103 発行